議事録

■日時

2021年 6月 2日　(水)　00：00-00：00

■出席者

チームUSK³

加藤昂大郎(リーダー)

神野アビジョイ（DBA）

川戸若葉(構成管理)

阪本奈津美(記録・議事)

丑澤友輝（品質管理）

■議事内容・議決内容

・中間会議①(10:50‐)

【議事内容】

〇誰に向けたどんなものを作るのか

受講者の反応が分かるような機能（可視化→講師の方）

・バロメータ

・ズームのリアクションボタンの集約

質問のカテゴリーをわける（→受講者）

・質問をまとめられるページ

・知恵袋みたいな

〇質問内容

受講者、企業の人事・配属部署の方、研修事務局、営業（SEプラスと企業の橋渡し役）、講師

＜研修事務局＞

受講者の理解度をどの程度把握しているのか

時間がかかってしまう業務

オンラインになって増えた仕事

グループ分けで困ること（レベル分け？、ランダム？）

受講者側への理解度（講師の方と違って日報へのコメントなど関りがない）

事務局と企業間との情報のやり取り（関りがどのくらいあるのか）

グループワーク、受講者同士のコミュニケーションは気になるのか

＜講師＞

個人で質問する人が多いのか

受講者とのコミュニケーションで困ること（自主的に質問しない人とのやりとりなど）

講師の方と事務局側との情報のやり取りについて（1人1人の受講者の情報の共有）

受講者同士のコミュニケーションはオフラインの時に比べて減ったのか

＜全員＞

オンラインになって便利になった点

〇システム

誰に焦点を当てるか

講師の方→1人1人への理解度が高まるシステム→研修事務局、企業

▷佐原講師のエラーをExcelにまとめる方法を応用

学習方法の共有ページがあれば心強い

色々な人が見れる掲示板（匿名か個人名か選べるシステム→受講者同士は匿名）

毎年躓く場所が分かるようにする

▷受講者の入力に応じて、アイコンが出る→ヘルプ内容が見れる（理解度チェックのリアルタイム化）

講師が呼び出せる

リアクション

モヤっとボール（ボールの色を変える、説明できる人が答えられるようにする）

助けに行くシステム、モヤっと部屋一覧

質問部屋の予約がとれる

何人待ちかが分かる

質問部屋行く前に確認事項を確認できるようにする

例）コードの打ち間違いの確認とか

行動パターン（エラー）の分析

【議決内容】

〇受講者の反応が分かる機能、質問のカテゴリーをわける機能を軸に質問を作成する

・質問回答(13:00‐)

＜主な仕事＞

事務局兼営業

・DOJOの運営

・運営にかかわるほぼすべてのこと（来年に向けて、営業、WEBサイト）

・受講中：（slackの確認）、slackでのやりとり、段位認定、テスト、日報

・受講者の要望を踏まえて来年度以降を考える

人数：ＤＯＪＯ専任4名（1日DOJO専任2人、その他2人）

1日の流れ：

開始（テスト）できるか確認→連絡→slackの確認→月木ミーティング（各クラスの状況、すり合わせ、日報・理解度をまとめて共有）→退勤（19:00-20:00）

出勤状況：週一出社

＜質問の回答＞

時間のかかる仕事：

グループを振り分ける仕事（男女比・経験の有無→講師の確認）、講師とのミーティングの時間

グループ分けの基準：

明確な基準はない、男女・企業が固まらないように（企業からの要望はほとんどない）

企業とのやり取り：営業担当がやりとり

頻度：毎月スキルシートを作成した段階で報告、他は各営業事

毎日は難しい、Teracoでのやりとり、面談の内容、成果物、講師から見た受講者の状況（電話等）

DOJOの強み：

講師陣のレベルの高さ（オンラインで全国から受けてもらえる）、6月の自由な開発演習、自由度の高さ（毎年変化することも）、実績（受講者の満足度やアンケート結果、講師陣の実績）

受講者への理解度：気にしている、企業に伝えるためにも、日報をまとめる業務もある

受講者の状況把握：

去年に比べて把握しやすくなった（理解度チェック、段位認定、実力が昨年は見えづらかった、実習中の画面共有で見えやすくなった）、表情はオフラインよりも見えづらい、メンタルが壊れてしまった時、自主的な発信がないと見えない→担任からの報告はある

過去の質問：蓄積されていない、データとして残っているが整理はできていない

質問の分類わけ：機器まわり（大勢からの質問は全員に対して、他は個別）、Teracoの不具合、講義、個別相談

質問の件数：1日多くて20件、少ない時で5件、平均7-8件、コース初日は多い

受講態度や精神面：事務局側では把握しづらい、担任からの共有

去年と今年の違い：場所が必要なくなった、ウェビナーの登場

日報で把握できない箇所：その日がどうだったかの報告は分かる→全体としてどうなっているのかが把握できない

オンラインと対面での情報の差：変化なし、理解度報告はオンラインになってから（データでとるようになった）、対面の時もslackが主な連絡手段

オンラインになって増えた仕事：配信のトラブル

オンラインになって楽：講師も事務局も会場に行かなくてよい、遅刻早退が多かった（管理は大変だった）

ネガティブな気持ち：上手く伝達できなかった時、重要度合いが分かりづらい、顔と名前が覚えられない、質問システム（実地の時よりも、情報共有しづらい）

DOJOカラー：黄色、オレンジ

＜講師の質問回答＞

質問解決にあたって不便だと思う所：

カテゴライズ（ドリル、段位認定←大カテゴリー、演算、配列←中カテゴリー）、受講者にとって検索しやすい方法とは

見やすい質問形式：

トラブルでの質問か（どういうエラーメッセージか）、用語が分からないのか、具体的に欲しい

ヒントが欲しいのか、答えが欲しいのか

個人での質問がどのくらいあるのか：

1日多くて80件、平均50件くらい（全体への質問は５％くらい）

佐原講師きてから（全体２０－３０％くらい）

受講者とのコミュニケーションについて：

できるだけわかっている人は分かっていない人に教えてあげてほしい

初めての人とのコミュニケーションをとりやすくする方法

セッション依頼について：

質問チャンネルを佐原講師メイン、待ち行列の状態が見えたら便利

オンライン研修と実地の差：

サボってるのが簡単に分かる（オンライン）、学習度はオンラインの方が高い、仲良くはなれなかった

仕事へのモチベーション：

現場に行くストレスがない、運動不足はネック、覚えるのに時間がかかる

日報にかける時間：

最短2時間、最長5時間→希望は1時間

どう楽にしたいのか：

コメントはしっかりつけたいけど、定型文があれば楽、表情もあれば

最初のレベルがわかるプロフィールがあれば嬉しいか：嬉しい

その項目：

大学、部活、趣味、好きなこと、性格のタイプ、血液型

自分の能力のフィードバックがほしい：

労力はかかる、何をすれば伸びるか伝えたい反面、返答する材料が今はない（プログラミングの頭の中で考えられているか分かる指数があればいい）

・中間会議②(15:00-15:10、15:34-16:10)

議事内容

理解度（リアクションが分かるもの）と掲示板

助けに行く、助けを求めるどっちも作る

質問にタグづけできる

順番待ちシステム

匿名可能にする

議決内容

・最終会議(16:22-)

議事内容

要件定義書作成作業

議決内容

議事録作成者：川戸